

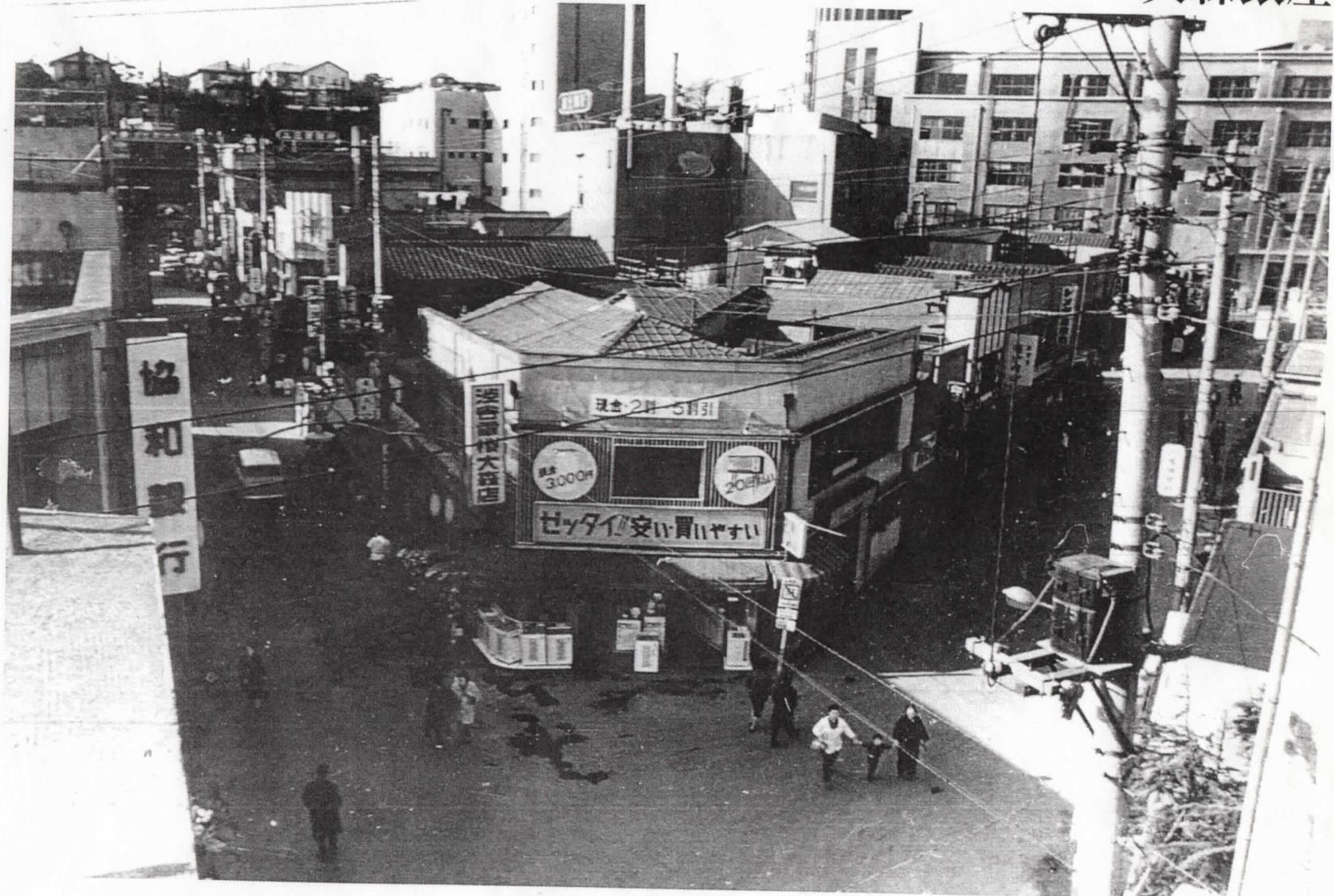
大森柳本通り



この写真は昭和30年代前半、いまの大森山王病院のあたりから大森駅方面を見た池上通りである。両側の歩道には柳が植えられており、商店会の名称も大森柳本通り商店街、柳会、新柳会となつた。その柳の木はアーチード建設の際、伐採された。中央に写っている火の見やぐらは、いまのいとう電気のところ。

その右に見える煙突は仲の湯（現セブンイレブンのビル）のもの。諸橋硝子店、藤川靴店（現在は絨毯屋）は現在も営業中。
右側の三和堂のとなりが果実店の信濃屋で、現在のダイシン百貨店だ。あの頃は自転車でさえなかなか手に入らなかつた。

大森銀座



この写真は昭和30年代の大森銀座商店街である。中央の「ゼッタイ!! 安い・買ひやすい」の看板が目立つ渋谷電機は、その後何店か変わつて、現在は携帯電話屋である。左側の道は現在のミルパで、まだアーケード建設前だ。山王のお屋敷が見える。協和銀行は現在のりそな銀行だ。

右側に見えるビルは元白木屋で、戦後経営

不振に落ち入り、横井秀樹が乗つ取ろうとしたが、昭和32年東急グループの傘下に入った。大森東興店から、この頃は東光ストア大森店に店名を変えた。大森銀座商店街は大正から戦前にかけて大森停車場通り、または八幡通りと呼んでいたが、昭和39年に振興組合を設立し、同46年にアーケードを完成させた。

写真提供／大田区広報課



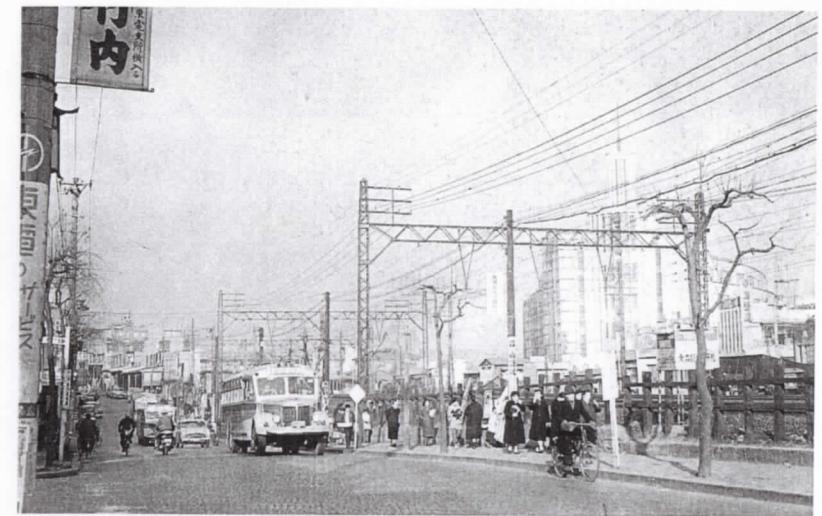
⑩大森駅山王口前 昭和36年(1961)

大正8年(1919)の①では人力車が、ここではタクシーがお客様を待っています。



⑨「大森貝塚」碑
昭和31年(1956)

昭和5年(1930)に建立された碑の周囲は、まだ整備されていません。



⑪大森駅近くの柳本通り 昭和32年(1957)

当時は、線路の向かい側にみえる白木屋のビルのほかに高い建物がありません。路面の石畳にもご注目ください。



⑫大田区役所 昭和31年(1956)

旧大森区役所の庁舎を、昭和22年(1947)に大田区となってからも同36年(1961)まで使っていました。

際に一現あり、櫻新道裏通りにも「みやこ」と稱するものありて、何れも料理屋、旅館を兼營するも、其の客室の設備等粹人雅客の休養場として、ことに淺酌低唱に好適し、頗る繁榮しつゝありて、一時は多數の同業者を生ずるの傾向ありたるも、大正十一年五月三十日を限り、料理屋、旅館の兼業を許されざることとなりしと共に、砂風呂旅館の營業も新規の出願を認められざるに至りしと云ふ。

五 活動寫眞其の他

活動寫眞常設館は、不入斗九〇一番地所在大森キネマと、新井宿池上通り九三八番地新井キネマの二館にて、大森キネマは大正十一年一月開館し、株式組織にて代表者は仲田定之助氏、新井キネマは同十三年八月開館、立石政吉氏の經營に係り、兩者とも相當繁盛しつゝあり、元來本町現時の戸口に比すれば、不入斗、新井宿とも各一館の現在は稍、寡さに過ぎ、曩には根ヶ原にも建設計畫あり、最近には八景坂ガード際にも、其の建築の標示を見たりしが、何れも一時中絶の状態にて、現今出願中のもの無しと聞くも、將來更に之れが増設を企畫せらるゝに至るべきは勿論にて、其の他の娛樂機關は、大正十五年六月現在に於て、ダンスホール一、大弓場一、室外釣堀四、室内射的二ヶ所及碁會所四ヶ所等なるが、殊に撞球場は近年著しく増加し、不入斗に榮軒本店、花家、交遊軒、南成クラブ、東陽軒外二、三戸、新井宿に第一日勝亭、三谿俱樂部、安樂俱樂部、福吉軒、常盤軒外數戸ありて、合計十六軒の多さを數ふるの盛況なるが、本町發展の状勢よりすれば、此の種の機關に於ても、尙ほ益々その數を増加するに至るべし。

六 ホテル

望翠樓ホテル

望翠樓ホテルは、新井宿愛宕山の高臺に在り。大正元年の建築に係る洋館二階建てにて、客室大小二十を有し、收容人員四十名を定員とするも各室の間取は勿論、廊下階段等極めて手廣きのみならず、室毎に浴場、便所を附屬するが如き他に殆ど類例を見ざる高雅なるものにて、食事其の他一切純洋式に據り、食堂

は優に百人を收容する設備あり、殊に庭園は頗る廣闊にして、古松老樹の雅致あるもの多く、躊躇其の他の花卉亦尠からず、四時清涼の氣に満ち、且つ眼下には不入斗大森の一帯と、東京灣の翠色を一眸の中に收め、眺望最も佳麗にして、眞に望翠樓の名に背かざるものあり。

經營者は、實業家にして衆議院議員たる若尾幾太郎氏なるが、大正四年來中園謙吾氏支配人として、實際の營業を擔當し、投宿客は主として、外人なるも近年は海外歸朝の邦人中にも、投宿するもの漸次増加しつゝありと聞く、而して支配人は接客上自ら諸般の注意を拂ひ、英、米、佛、伊は勿論、露、支、印度等各國の投宿者に對し、其の國々の國狀と國交上の關係を斟酌し、終始誠意を以て對遇し、店員も亦其の意を體して、客を遇する極めて懇切なるものあるより、特に外人の信用厚く、常に滿員の盛況を呈しつゝあり。

大森ホテル

大森ホテルは、大森驛の西南三丁餘、八景園住宅地脇の高臺に在り、大正十一年中新築開業のものにて、客室三十五、收容人員六十名の純洋式「バンガロー」風の建築なるが、他に日本室の設備もあり、各室には給水給湯の設備を爲し、浴室便所は洗滌式にて污水の淨化裝置も完全し、上下の「ペランダ」と構内の花園は、郊外氣分を味ふに足り、殊に各窓及出入口には金網戸の設けありて、夏季の生活に最も不快なる蚊蠅の襲來を防ぎ、且つ應接室には常に「ピアノ」及「ピクトロラ」等の、樂器音譜の最新なるものを備へ置く等、最も現代的にしてまた頗る瀟灑なるを認む。

經營者は奈良、京都、朝鮮ホテル等に、二十有餘年間の經驗ある猪原貞雄氏にして、内外人の知己も尠からず、隨て常時投宿客充滿し、殊に食堂は普通食堂の外、特別食堂の設けあり、大小宴會の需要に應じ、飲食物等殊に原料を精撰し、總ての無駄を省きて實質を本位とし、頗る手輕にして而も高尚なるものあり、城南の探梅、八幡の汐干狩り、近郊の散策及月見雪見の風流にも、四季折々の道すがら、家族同伴の家庭的會食者等多數にて、終始繁盛を極めつゝあり。

STREET



⑩③区役所屋上からみた池上通り 昭和39年(1964)

池上の方向をみたところですが、日赤病院の大きいのが目立ちます。



⑩④区役所屋上からみた池上通り 昭和39年(1964)

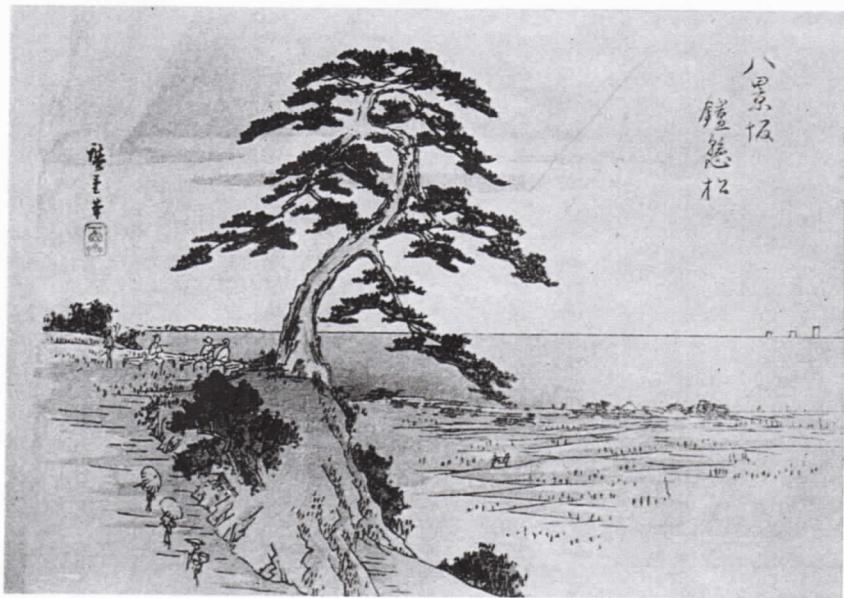
池上通りの大森方向をみても、あまり高い建物は目につきません。



⑩⑤現在の同方向 平成4年(1992)



⑩⑥現在の同方向 平成4年(1992)



6 八景坂鎧懸松（江戸時代）広重筆

7 大森駅前の八景坂 右側の建物の手前が天祖神社への石段（大正末期）



八景坂と山王台地

大森駅山王口前の坂道は八景坂と呼ばれている。この坂の名は中国の瀟湘八景や、日本の近江八景・江戸近郊八景など、風光明美な地になぞらえて選ばれた大森八景に由来するものではなく、東日本の古い方言で、台地の末端にみられる崖を「ハケ」又は「ハツケ」と呼んでいた事によると、西岡秀雄氏は指摘している。

平間街道のこのあたりは、大森駅が開設されても、なお近郊農村的性格が強く、大正期に入つてからようやく商店などが建ち並ぶようになった。しかし繁華街としてはまだ東海道筋の旧大森方面に及ばず、それをしのぐに至るには第二次大戦以降を待たねばならなかつた。

しかし近くの山王台地には名園として名を得た八景園や、小銃の練習場である大森射的場、また大森ホテル・望翠楼ホテルなどもあって行楽客を呼び、加えて山王台地が城南地区における高級住宅地として、多くの著名な人たちが居をかまえるようになつて、次第ににぎわいを見せるようになつた。

8 線路越しに写された暗闇坂(大正末年ごろ)



矢口渡商店街 昭和30年

この地区には工場が多かった。夕方になれば地元の買い物客と通勤の人とが重なり、商店街はにぎわいを見せた。現在、工場の区外移転が進み、このような人出はみられない。 大田区広報広聴課所蔵



武藏新田商店街 昭和30年

正面に新田神社の一之鳥居が見える。この道は、神社への参道だった。店先のよしす、丸いポストにリヤカー、どれも昭和30年代らしい風景である。

大田区広報広聴課所蔵



下丸子商店街 昭和30年頃

この商店街は下丸子商業会という。駅から少し南東に行ったところにあって、写真是その入口から撮ったもの。右の食料品店、左の花店、ともにお健在である。

大田区広報広聴課所蔵





大森駅近くの柳本通り
昭和32年

通りの名前の由来である柳の街路樹が続いている。今はアーケードになつて柳はない。線路越しに見える大きな建物は白木屋である。ポンネットバスが登ってくる路面は石畳だった。
大田区広報広聴課所蔵



蒲田駅西口商店街 昭和31年

区画整理される前の商店街。まだアーケードもなく、電信柱と電線がお店の看板と競い合うように視界を埋めている。
大田区広報広聴課所蔵

ある日の風景



大森駅山王口前 昭和36年頃

大森駅の西口になる。通称・山王口と呼ばれていた。当時は東西をつなげる通路はなかったので、東口と西口のそれぞれに改札口があり、さらに昭和34年からは北口の改札口もできていた。

大田区広報広聴課所蔵

大森駅東口 昭和31年

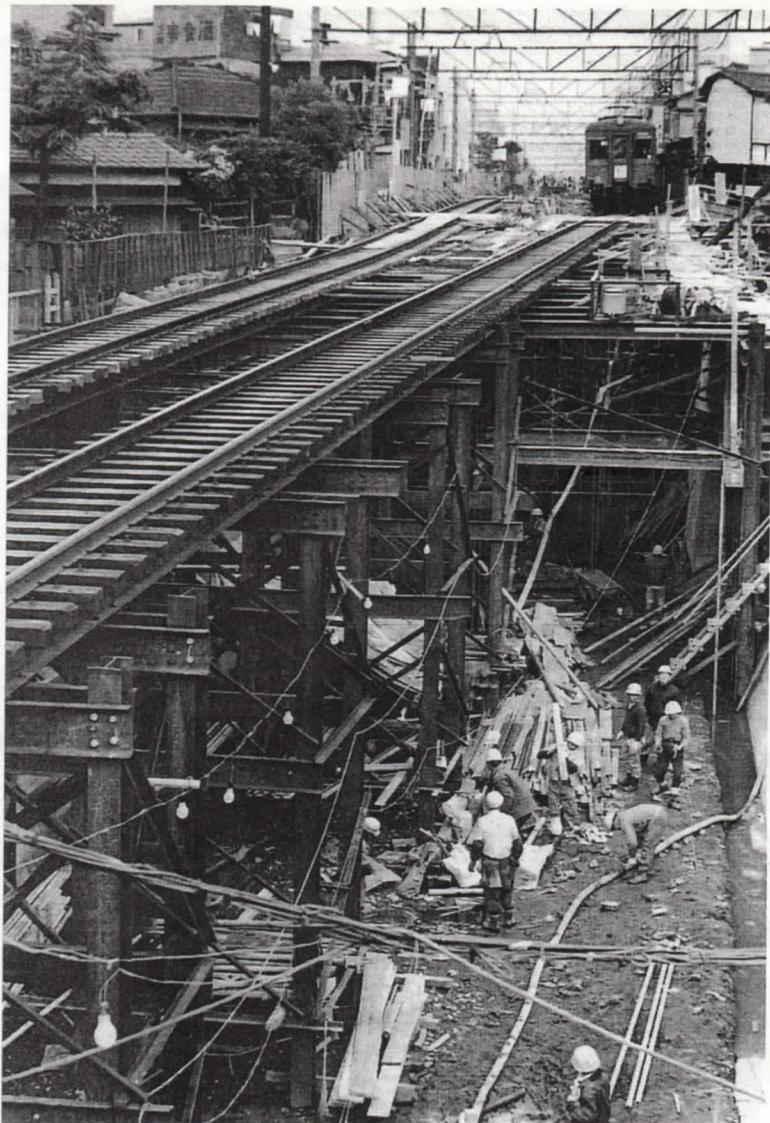
恐らく東口にあつた白木屋から撮ったのだろう。跨線橋の向こうに山王口の特徴的な駅舎の屋根が見える。現在の駅舎は、昭和59年にできたもの。

大田区広報広聴課所蔵



大森駅
(国鉄)

地中化工事中の東京急行電鉄池上線長原駅
(昭和42年) 旗の台踏切の地中化にともない、長原駅も地中化された。



長原駅（昭和34年） 東京急行電鉄池上線の長原駅。「長原」という地名は、開設当時の馬込村の字だった。